

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	資料1-8
提出年月日	令和6年2月5日

ヒアリングにおけるコメント回答資料

指摘事項

No. 27 (230703-26)	耐震 設計方針	逆流防止弁に対する循環水ポンプ等の波及的影響の評価に関して、溢水側で実施するSs機能維持とするのか、埋設構造物のため波及的影響がないと整理するのか、先行実績も確認の上、説明すること。
-----------------------	------------	---

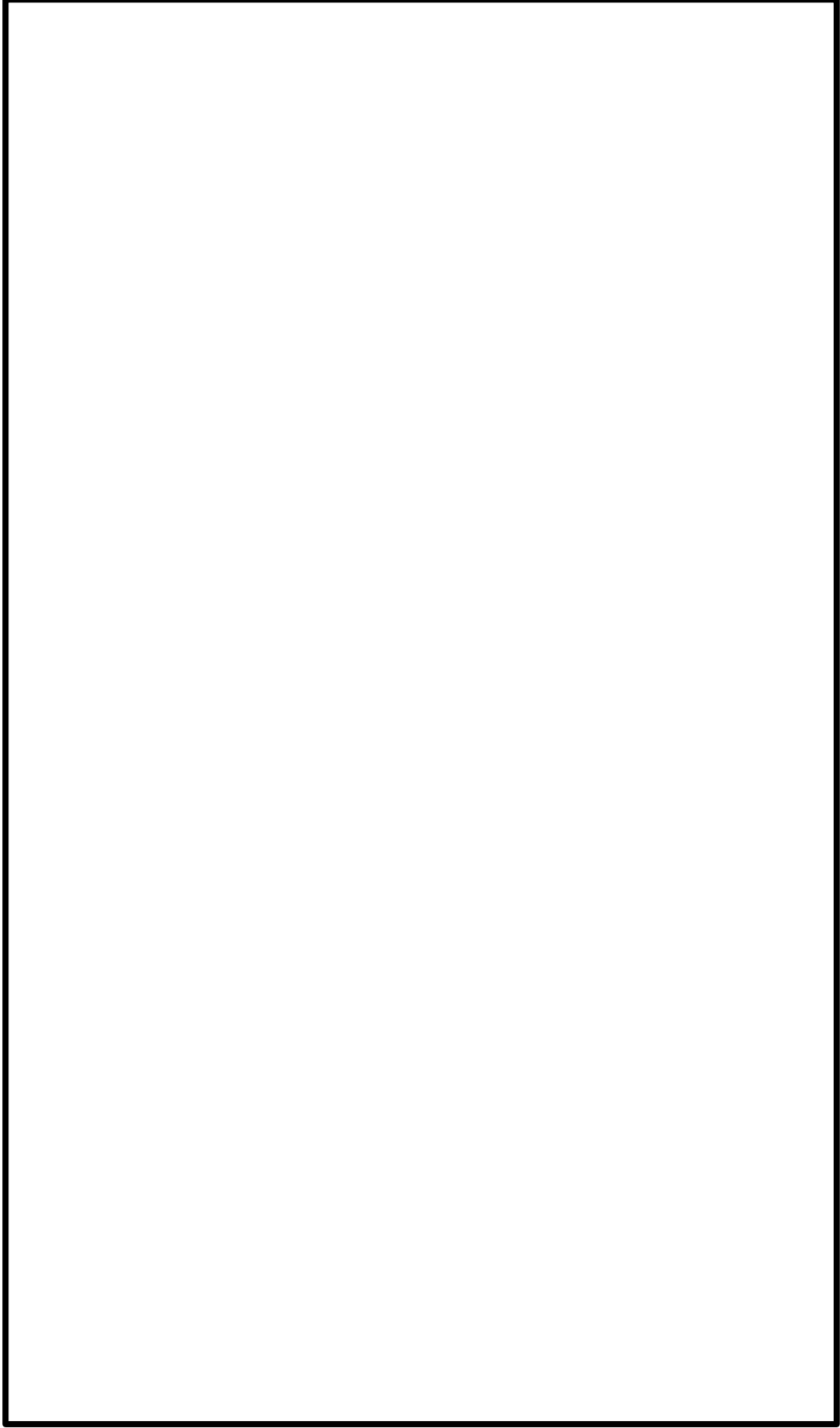
A：逆流防止弁（以下「ドレンライン逆止弁」という。）に対し、周辺に位置する下位クラス施設は、第1図に示すとおり循環水ポンプの吐出しエルボが挙げられ、当該設備は第9条「溢水による損傷の防止等」の観点でSs機能維持を図る方針としている。

一方、吐出しエルボの形状及び据付状況を考慮すると、ボルトが全周破断することは現実的ではないが、仮に全周破断を想定した場合においても吐出しエルボの重心位置を踏まえると第1図に示すX軸方向に転倒することとなり、ドレンライン逆止弁側には転倒することはない。（第1図、第2図参照）

また、仮にドレンライン逆止弁側に転倒した場合を考慮しても、第2図及び第3図に示すとおりドレンライン逆止弁は排水柵の底面に設置された構造であり直接衝突することはないことから、審査において同様の整理を行っている先行実績は確認できないものの、泊3号炉においては地震時の波及的影響はないと整理している。

以上より、循環水ポンプについては、波及的影響を及ぼすおそれのある下位クラス施設として抽出しない。

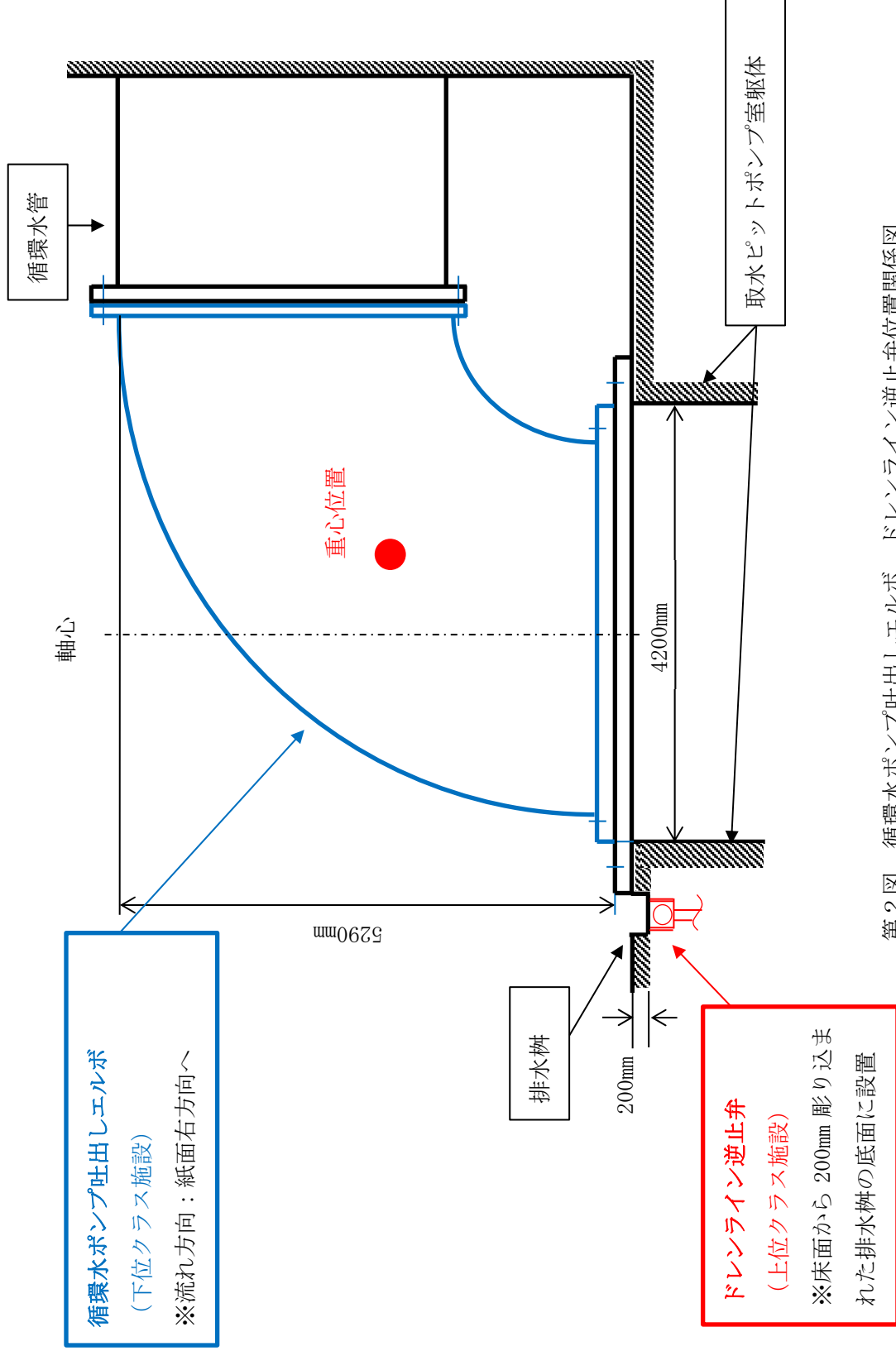
枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。



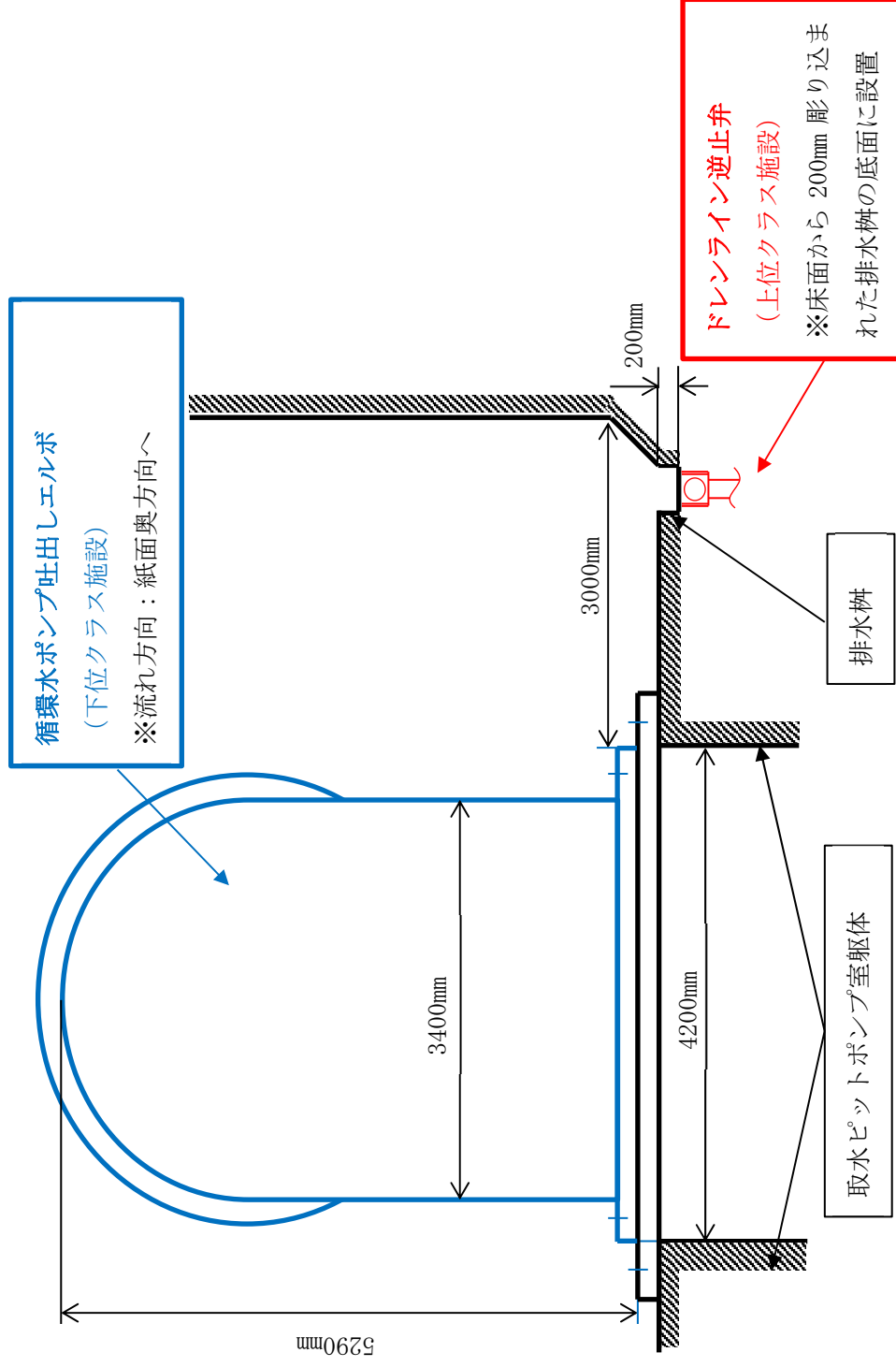
第1図 取水ピットポンプ室 (E. L. +2.5m) 平面図



枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。



第2図 循環水ポンプ吐出しエルボ ドレンライン逆止弁位置関係図
(※第2図は、第1図の視点方向Aから見た位置関係を示したものである。)



第3図 循環水ポンプ吐出しエルボ ドレインライン逆止弁位置関係図
 (※第3図は、第1図の視点方向Bから見た位置関係を示したものである。)